

ふじさわ子ども読書プラン 2030

～第5次藤沢市子ども読書活動推進計画～

2026 年（令和 8 年） 3 月

藤 沢 市

計画の策定にあたって

近年、デジタル技術や多様なメディアの急速な普及により、子どもたちを取り巻く環境や学びのかたちは大きく変化しています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちが人とつながり、本にふれる機会が制限される時期も経験しました。このような社会環境の変化の中にあっても、読書は、子どもたちが言葉にふれ、想像力や思考力を育み、自ら考える力を養うための、今なお変わらぬ価値を持つ営みであると考えています。

国においては、2001年（平成13年）の「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行以降、基本計画を策定しており、2023年（令和5年）3月には第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。

神奈川県でも、2024年（令和6年）3月に第五次「かながわ読書のススメ～神奈川県子ども読書活動推進計画～」を策定し、県内の読書環境整備など、主体的な読書活動の推進を図っています。

本市においても、すべての子どもたちが、本に出会い、言葉にふれ、本に親しめる環境をより豊かに整えるため、2006年（平成18年）に「藤沢市子ども読書活動推進計画」を策定し、以降、計画の見直しや更新を重ねながらさまざまな取組を進めてきました。

このたび、第4次計画の最終年度を迎え、国及び県の第5次計画とも整合性を図りながら、引き続きすべての子どもたちが、本に出会い、言葉にふれ、本に親しめる環境をさらに充実させるために、「ふじさわ子ども読書プラン 2030～第5次藤沢市子ども読書活動推進計画～」を策定いたしました。

第5次計画では、「読書への関心を高める工夫」、「デジタル社会の急速な変化への対応」、「すべての子どもたちの読書機会の確保」の3つを新たな視点と捉えて施策展開していきます。

また、これまで取組の中心としてきた「家庭」「学校」「地域」に加え、新たに「専門・関係機関」を位置づけ、事業内容を整理・再構築しました。これにより、それぞれの役割をより明確にし、相互の連携を深めることで、子どもが本に親しむ機会を広げる基盤を強化し、計画全体の実効性を高めてまいります。

本計画を通じて、すべての子どもたちが本と出会い、自分にとって大切な一冊に巡り合える環境を整えるとともに、家庭や学校、地域、専門・関係機関など、本市に関わる多くの人たちとのマルチパートナーシップにより、未来を担う子どもたちが豊かな心を育み、健やかに成長できる環境づくりを進めてまいります。

結びにあたり、アンケート調査やパブリックコメントを通じて貴重なご意見をお寄せいただいた市民の皆様をはじめ、計画の策定にご尽力いただきました策定委員の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

2026年（令和8年）3月

藤沢市長 鈴木 恒夫

目 次

第1章 子どもの読書活動の意義と計画の位置づけ

- 1 子どもにとっての読書活動の意義 1
- 2 子ども読書活動推進計画の位置づけ 4

第2章 子どもの読書活動をめぐる状況

- 1 アンケート調査からみられる状況 9
- 2 第4次計画における取組の評価 21
- 3 取組の評価と、アンケート調査等から見てきた課題 26

第3章 第5次計画の基本理念と施策の方向性

- 1 計画の基本的な考え方 29
- 2 計画推進のためのそれぞれの役割 33
- 3 施策の体系 37
- 4 施策の体系イメージ 38

第4章 施策の展開

- 1 家庭における読書活動への支援 40
- 2 学校における読書活動の推進 45
- 3 地域における読書活動の推進 48
- 4 専門・関係機関による読書活動の支援と連携 51

資料編

- 1 第5次藤沢市子ども読書活動推進計画の策定経過 53
- 2 藤沢市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱・委員名簿 55
- 3 藤沢市子ども読書活動推進計画作業部会設置要綱・委員名簿 59
- 4 藤沢市子ども読書活動推進会議の設置及び運営に関する要綱 62
- 5 パブリックコメント（市民意見公募）の実施概要と結果 63
- 6 関係法令 64
- 7 参考文献及び資料一覧 67

